



適切な支援を切れ目なく引き継ぐために

3月に入り、年度末のまとめの時期となりました。児童生徒のより良い発達のためには、成長に合わせて切れ目のない適切な支援を行っていくことがとても大切です。新年度、児童生徒が安心してスタートできるよう、生徒指導上の配慮や特別な支援を必要とする児童生徒に対し、今年度行った指導・支援を丁寧に振り返って整理し、大事なことを確実に引き継ぐことができるよう準備しておきましょう。

指導・支援の振り返りを丁寧に！

今現在行っている指導・支援について、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」等を活用して、PDCAのC【評価】、A【改善】の観点で見直しを行いましょう。そして、今後の課題を具体化し、次年度の指導・支援の方向性まで考えておくと良いでしょう。新年度、P【計画】を立てる際に今年度のことを引き継ぎやすくなります。

【改善】
評価を受けて
○目標の見直し
○指導の継続や改善



校内、校種間の引継ぎを確実に！

適切な支援を途切れさせないためには、上記で見直した指導・支援等の情報を**確実に次年度へ引き継ぐ**ことが重要です。

特に、進路等による学校間での引継ぎでは、引き継ぎ先となる学校と積極的に連絡会を設ける等、十分な情報交換ができるよう工夫する必要があります。(令和5年1月11日 教人生第340号「中学校・高等学校間の情報連携の推進について(依頼)」を参照。)

また、引継ぎの際には「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」、「長期欠席・不登校児童生徒に関するアセスメントシート(岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード参照)」等、情報共有ツールを活用すると効果的に引き継ぐことができます。指導・支援と併せて、その子の強みや良いところ等の情報も記載しておく、新年度改めて指導・支援を考える時の手がかりになるでしょう。

引き継いだ側は、提供された情報を基に新しい環境の中における児童生徒の姿を想定し、必要な指導・支援を明確にして新年度の準備をしていきましょう。

もし、引継ぎにともなって新年度の支援体制等を考えるケース会を行う際には、当センターの学校コンサルテーションもご活用いただけますのでご検討ください。

切れ目ない支援体制の構築のために

